

勞働組合法案特別委員會議事速記第一號

委員氏名

委員長
副委員長

河原田藤吉君

男爵久保田敬一君

公卿若倉 具榮君

侯爵德川 賴貞君

侯爵中山 純親君

伯爵橋本 實斐君

伯爵立花 種忠君

子爵秋元 春朝君

子爵梅園 篤彦君

子爵高木 正得君

子爵齋藤 齊君

下條 康廣君

吉田 茂君

大野綠一郎君

大橋 八郎君

男爵八代五郎造君

男爵肝付 兼英君

男爵西 西乙君

男爵村田 保定君

藤沼 庄平君

長岡隆一郎君

松本健次郎君

瀧川 儀作君

河西豐太郎君

松本勝太郎君

奥 主一郎君

秋田 三一君

昭和二十年十二月十五日(土曜日)午
後一時八分開會

○委員長(河原田藤吉君) ソレデハ是
ヨリ勞働組合法案特別委員會ヲ開キマ
ス、先ツ厚生大臣ノ御説明ヲ願ヒマ
ス

○國務大臣(齊田均君) 勞働組合法案

勞働組合法案特別委員會議事速記第一號

昭和二十年十二月十五日(貴族院)

一

ノ概要ニ付テ御説明申上ゲマス、本法

案ヲ提出致シマシタ理由ニ付キマシテ

ハ、本會議ニ於テ申述ベシタガ、一

言ニシテ申セバ、時代ノ要求ニ即應シ

テ、我が國ニ於ケル民主主義の傾向ノ

復活強化ヲ促進シ、勞働階級ノ福祉ヲ

増進シテ、社會進歩ノ法則ニ歩調ヲ合

セムトスル爲メノ立法デアリマス、茲ニ

聯合國最高司令部ヨリ帝國政府ニ對

シ、勞働組合法ヲ促進助長スベキ旨ノ要

請ガ發セラレタノモ、亦右ノ趣旨ニ外

ナラズモノト思考致シマス、此ノ機會

ニ於テ帝國政府ハ、我ガ國産業ノ再建

ノ上ニ重要ナル地位ヲ占メル勞働者ニ統

一ト秩序トヲ與ヘ、其ノ勞働條件ヲ適

正ニシ、勞働意欲ヲ積極ニ昂揚セム

ガ爲メ、勞働組合ノ健全ナル結成活動ヲ

保護助成セムトスル意圖アリテ、此ノ

法案ヲ立案致シタモノデアリマス、以

下簡單ニ法案ノ要旨ヲ申述ベマス、第

一、本法ハ勞働者ノ團結權ヲ保障シ、

團體交渉權ノ保護助成ヲ行ヒ、以テ勞

働者ノ地位ノ向上ヲ圖リ、經濟ノ興隆

ニ寄與スルコトヲ目的トスル旨ヲ闡明

シタノデアリマス、第二、勞働組合

ノ團體交渉、「ピケツチンダ」其ノ他ノ

爭議行為ニシテ正當ナルモノニ付テ

ハ、刑法第三十五條ノ適用アルコト、

換言スレバ、如上ノ行為ヲ以テ正當ノ

業務ニ依リ爲シタル行為トシテ、刑罰

法令ニ依リ之ヲ罰シナイコトトシタノ

デアリマス、第三、勞働組合ノ定義、

結成、運営、法人格ノ附與等ノ事項ニ

付テハ、組合ノ自主的且自然發生的性

格ニ鑑ミ、成ルベク之ヲ自由ナラシメ

ルト共ニ、之ガ適正ヲ維持スル爲メ、最

少限度必要ナル若干ノ規定ヲ設ケタコ

トデアリマス、第四、組合ノ代表者

等ニハ團體交渉等ノ權限ヲ與ヘ、又使

用者ニ付テハ、其ノ從業者ガ組合ニ加

入スルコトニ對シテ、不當ナ妨害ヲ爲

サナイコトヲ保障シ、又勞働者ノ正當

ナル爭議行為ニ付テハ、使用者側ヨリ

損害賠償ヲ要求シ得ナイコトトシテ、

組合ノ健全ナル結成及活動ヲ保護シタ

ノデアリマス、第五、組合ノ經營ス

ル共濟事業其ノ他福利事業ニ付テハ、

産業組合ニ準ズル免稅ノ恩典ヲ與ヘ、

以テ其ノ保護助長ヲ圖ツタコトデアリ

マス、第六、組合ト使用主間ニ締結セ

ラル、勞働協約ハ、勞働能率ノ増進ト

産業平和ノ維持ノ爲ニ極メテ重要ナル

係アル事實ニ鑑ミ、協約ノ締結、其ノ

拘束力等ニ付キ、ソレトモ所要ノ規定

ヲ設ケタコトデアリマス、第七、勞働

組合ト使用者間ノ關係ヲ圓滑且民主的

ニ調整スル爲メ、勞働者側、使用者側及

ビ中立ノ代表者ヲ以テ勞働委員會ヲ設

ケテ、之ヲ中央、地方其ノ他ニ設置ス

ルコトトシ、之ニ廣汎ナル權限ヲ附與ス

ルコトトシ、之ニ廣汎ナル權限ヲ附與ス

ルコトトシ、之ニ廣汎ナル權限ヲ附與ス

ルコトトシ、之ニ廣汎ナル權限ヲ附與ス

ルコトトシ、之ニ廣汎ナル權限ヲ附與ス

ルコトトシ、之ニ廣汎ナル權限ヲ附與ス

ルコトトシ、之ニ廣汎ナル權限ヲ附與ス

ルコトトシ、之ニ廣汎ナル權限ヲ附與ス

ルコトトシ、之ニ廣汎ナル權限ヲ附與ス

ルコトトシ、之ニ廣汎ナル權限ヲ附與ス

ルコトトシ、之ニ廣汎ナル權限ヲ附與ス

ル育成ヲ圖ラムトスルモノデアリマ

ス、何卒御審議ノ上、速カニ御協賛ア

ラムコトヲ希望スル次第デアリマス

○委員長(河原田藤吉君) 便宜御質問

ヲ願ヒマス、別ニ總括的トカ或ハ細目

的トカ云フ區別ヲ設ケヌデ、適宜御質

疑ヲ願ヒマス

○子爵梅園篤彦君 二、三質問ヲ申上

ゲタイデアリマスガ、ソレニ先ダチマ

シテ大臣ニ伺ヒタイと思ヒマス、「マッ

カーサー」司令部ノ要請ニ應ジテ此ノ

法案ヲ御提案ニナツタ云フ風ニ伺ヒ

マシタガ、此ノ各條文ニ付テモ一々司

令部ト連絡御交渉ニナツタ上デ、本案

ヲ決定セラレタノデアリマスカ、其ノ

點ヲ御伺ヒタイと思ヒマス

○國務大臣(齊田均君) 梅園子爵ノ御

質問ノ點ハ、本案ノ審議ヲ進メテ戴ク

上ニ極メテ重要ナル點デアルト思ヒマス

ガ、本日答辭ノ資料ヲ用意致シテ居リ

マセヌ爲ニ、明日適當ノ機會ニ、委員

長ヨリ御指定ノ時間ニ、説明申上ゲル

コトニ致シタイ存ジマス

○子爵梅園篤彦君 只今御伺ヒ致シマ

シタ點ハ、諒承致シマシタ、就キマシ

テハ、二、三此ノ機會ニ大臣ニ伺ツテ

置キタイと思ヒマス、先ツ本法ノ第一

條ニ於キマシテ、團結權ノ保障及團體

交渉權ノ保護助成ニ依リマシテ、勞働

者ノ地位ノ向上ヲ圖ルト云フヤウニ出

テ居リマスルガ、此處ニ謂フ勞働者ノ

地位ト云フコトハ、如何ナル種類、性

質ノ地位ヲ指スノデゴザイマセウカ、

此ノ點ヲ先ツ伺ヒタイと思ヒマス

○國務大臣(齊田均君) 御答ヘ致シマ

ス、勞働組合ノ目的ガ主トシテ勞働者

ノ經濟的地位ノ向上ニ在ルト云フ點

ハ、内外共ニ一致シタ見解デアリマシ

テ、其ノコトハ此ノ法案ノ第二條ニ規

定シテ居ルデアリマス、第一條ハ、勞

働組合法ヲ制定スル目的ヲ主トシテ掲

ゲタモノデアリマシテ、單ニ勞働組合

ノ目標ノミナラズ、之ヲ使用者側ノ立

場カラ、或ハ政府ノ立場カラ考ヘマシ

テ、如何ナル氣持デ此ノ法案ヲ作ツタ

カト云フ意味ヲ、出來ルダケハツキリ

現レルヤウニ書イタモノデアリマス、

從ツテ勞働者ノ地位ノ向上ト申シマス

ト、極ク常識的ニ考ヘテノ地位ノ向上

ト云フ意味デアリマシテ、特ニムツカ

シイ法律的ノ意味ヲ規定シタモノデハ

ナイノデアリマス、從ツテ勞務法制審

議會ノ答申案ノ中ニハ、經濟的、社會

的、政治的地位ノ向上ト云フコトガ、

三ツ並ニ出テ居ツタノデアリマス

ガ、併シ其ノ三ツノ目標ハ、動モスル

ト勞働組合本來ノ目的タル經濟的地位

ノ向上ト云フコトヲ、稍々不明確ニス

ル嫌ヒガアリマスノデ、寧ろ平たく勞

働者ノ地位ノ向上ト書クコトガ適當ト

考ヘマシタ、併シナガラ勞働組合ノ目

標ハ經濟的地位ノ向上ニ在ルト致シマ

シテモ、其ノ他ニ勞働組合ハ福利施設

ヲ行フトカ、圖書館ヲ作ルトカ、學校

ヲ作ルトカ云フヤウナ、文化的な面、

社會的な面モ持ツテ居リマス、又世界

各國ノ例ヲ見マス、勞働組合ガ或程

度ノ政治運動ヲスル事實ハ、之ヲ認め

テ居ルノデアリマス、具體的ニ申セバ、

勞働組合ガ或候補者ニ政治的支持ヲ與

ヘル爲ニ運動資金ヲ寄附スルトカ、或ハ労働組合ハ是ノ黨派ニ支持ヲ與ヘルト云フ態度ヲ決定スルコトモアリマス、サウ云フ從屬的ノ活動ヲ禁止スル趣意デハナイノデアリマス、併シナガラ主タル目標ガ經濟的地位ノ向上デナケレバナラスト云フコトハ疑ヲ容レナイノデアリマス、即チ主タル目標ト從屬シタル目標トノ總テヲ併セテ労働者ノ地位ノ向上ト云フ意味デアリマス、左様御了承ヲ願ヒマス

○子爵梅園篤彦君 只今ノ大臣ノ御説明ニ依リマシテ大體了承致シマシタガ、此ノ第一條ノ末尾ノ方ニ、「經濟ノ興隆ニ寄與スルコトヲ以テ目的トス」此ノ「經濟ノ興隆ニ寄與スル」ト云フ文字カラ察シマスルト、經濟的地位ノ向上デハドウシテモ私共物足ラナイ、矢張り政治的並ニ社會的地位ノ向上ヲ併セテ圖ルハ必要ガアルト云フ風ニ考ヘマシテ、御伺ヒ致シタノデアリマスガ、只今ノ御懇切ナル大臣ノ御説明ニ依リマシテ、大體了承致シマシタ、尙モウ一つ伺ヒタイト存ジマスノハ、此ノ法案ハ恰モ労働憲章ニモ比スベキ所ノ第一條ノ規定ヲ設ケテ居リマスル以上、確カ「ドイツ」ノ「ワイマール」憲法ニ規定シテ居ツタト云フヤウニ承知シテ居リマスガ、憲法ノ臣民ノ權利義務ノ規定中ニ、労働ノ權利義務ニ關スル規定中ニ、労働ノ權利義務ニ當リマシテ、新憲法ニ規定スルト云フヤウナ用意ヲバ御持チニナツタ御考ガオアリニナルノデゴザイマセウカ、其ノ點ヲ御伺ヒ致シマス

○國務大臣(青田均君) 只今憲法ノ改正ガ問題トナツテ、内閣ニ於テモソレゾレ主任ノ部署ヲ定メテ研究致シテ居

リマスガ、恐ラク來ルベキ憲法ノ中ニハ、労働義務或ハ労働ノ權利等ニ付テ規定ヲ設ケラル模様デアリマス、從ツテ特ニ其ノ方面ニ造詣ノアル専門家ニ委嘱致シマシテ、本法案ノ研究ヲ今日迄續ケテ居ル労働法制審議會ニ於テ、此ノ問題ヲ研究中デアリマス、其結果ノ答申ヲ俟ツテ、政府トシテハ之ヲ參考ニ致シタイ、斯様ニ考ヘテ居ル釋デアリマス

●子爵梅園篤彦君 次ニ第四條ニ於キマシテ、警察官吏、消防職員ヲハ、労働組合ヲ結成シ、又ハ労働組合ニ加入スルコトヲ禁止シテ居ルヤウデアリマスルガ、是ハドウ云フ譯デアリマス居ルデアリマスガ、伺ヒタイノデアリマス、若シ「ストライキ」等ノ紛争ヲ起シタ場合ニハ困ルト云フコトヲ慮ツテノコトデアリマスガ、「ストライキ」等ノ防止對策ハ他ニ其ノ途ガアルヤウニ思ハレマスノデ、寧ロ是ハ警察官吏、消防職員ト云ツタヤウナ者ニ對シマシテモ、此ノ労働組合ノ結成ヲ許シテモ宜イノデヤナイカト云フヤウニ考ヘマスルガ其ノ點ニ對スル大臣ノ御所見ヲ伺ヒタイノデアリマス

○國務大臣(青田均君) 此處ニ掲ゲマシタ警察官吏、消防職員、監獄ノ勤務者、是等ハ主トシテ國內ノ治安維持ニ最モ緊切ナル關係ヲ持ツテ居ル官吏若シクハ之ニ相當スル人間デアリマシテ、是等ノ者ニ爭執行爲ヲ許スカ許サナイカト云フコトハ、只今梅園子爵ノ御意見ト云フ議論モ立ツト思ヒマス、併シナガラ今日我が國ノ狀況カラ見マスル場合ニ、是等ノ直接國ノ治安維持ニ重大ナ責任ノアル人間ニ、爭執行爲ヲ公然ス許スコトハ、幾多ノ場合ニ面白ク

ナイ結果ヲ及シハシナイカト考ヘマシテ、コノ三種ノ勤務者ニ限ツテ組合ノ結成若シクハ加入ヲ禁止スルコトガ適切デアルトシタ譯デアリマス、外國ニ於キマシテモ、警察官吏、消防職員等ニ對スル組合ノ加入ヲ認メテ居ル場合ニ於テモ、非常ニ窮屈ナル制限ヲ加ヘテ居リマスカラ、或意味ニ於テハ、極端ナル制限ヲ加ヘナガラ労働組合ヲ結成セル位ナラバ、寧ロ初メカラ禁止ガ方ガ適當デナイカ、斯様ニ考ヘタ譯デアリマス

○子爵梅園篤彦君 只今ノ御懇切ナル御説明ニ依リマシテ了承致シマシタ、就イテハ、第十三條ニ共濟事業其ノ他福利事業ヲ爲ス設タル基金ノコトガ出テ居リマスガ、此ノ基金ハ、總會ノ決議ヲ經マシタ場合ニ、政治運動ニ之ヲ使用スルコト云フコトハ出來ナイノデアリマスルカ、或ハ場合ニ依ツテハ使用スルコトガ出來ルノデゴザイマスガ、此ノ點ヲ伺ヒタイト思ヒマス

○國務大臣(青田均君) 第十三條ニ規定シテ居リマス趣意ハ、總會ノ決議ヲ經ル場合ニ於テハ、福利事業ノ基金ヲモ政治運動ニ流用スルコトガ出來ル、斯ウ云フ趣意デアリマス

○子爵梅園篤彦君 能ク分リマシテゴザイマス、モウ一點伺ヒタイノデアリマスガ、第十五條ニ「憲法令ニ違反シ」トアリマスルガ、此ノ「違反」ト云フノハドウ云フ意味デアアルノデアリマスルカ、此處ニ謂フ「違反」ノ意ハ付テ御説明ヲ煩ハシタイト思ヒマスルノト、其ノ下ニ「安寧秩序ヲ紊リタルトキ」トアリマスルガ、其ノ程度ハドウ云フモノデアリマスルカ、出來マシタ例示シテ御説明ヲ煩ハシタイト思ヒマス

○國務大臣(青田均君) 「憲法令ニ違反シ安寧秩序ヲ紊リタルトキ」ト云フ一句ノ、「違反」ガ何處ニ係ルカト云フコトガチヨット複雑ニ見エマスガ、憲法令ニ違反シト云フ意味デアリマシテ、「違反」ト云フ字ハ「法令違反」ト云フコトニ係ルノデアリマス、「違反」トハ極メテ通俗的ニ、一回ノ場合ハ違反スル、少クモ二回以上法令ニ違反スル、斯ウ云フ意味ノ違反デアリマス、然ラバ「安寧秩序ヲ紊リタルトキ」ト云フコトハ一體ドウ云フコトカ、是モ常識デハ直グ分ル言葉デアツテ、而モ之ヲ適切ニ解釋スルコトガムツカシイ言葉ダト思ヒマスガ、普通ニハ公共ノ安全、經濟、社會、國家ノ普通常軌ノ秩序、斯ウ云フ意味ニ取ツテ居ルノデアリマシテ、例ヘバ人心ヲ惑亂スルコトカ、或ハ人心ヲ混亂シテレハヤウナ場合ヲ、此ノ安寧秩序ノ文字ニ盛ツテ居ル譯デアリマス、御承知ノ通り治安警察法ガナクナリマシタ結果、結社ノ解散ハ非常ニムツカシクナツテ居ルノデアリマス、併シナガラ労働組合ノ場合ニ於テハ、特ニ斯ウ云フ手續ヲ經テ組合ノ解散ヲ爲スコトガ出來ルト云フノデアリマスカラ、解散ヲ爲ス場合ノ手續ハ、條件ニ於テモ、又手續ニ於テモ相當制限シテ、嚴重ニシテ置ク必要ガアルト云フコトカラ、労働委員會ノ申立ニ依ツテ裁判所ガ解散ヲ命ズル、而モ其ノ理由トシテ、違反法令ニ違反シ安寧秩序ヲ紊リタルト云フ場合ニ限ラウト云フ趣意デアリマス

反シ安寧秩序ヲ紊リタルトキ」ト云フ一句ノ、「違反」ガ何處ニ係ルカト云フコトガチヨット複雑ニ見エマスガ、憲法令ニ違反シト云フ意味デアリマシテ、「違反」ト云フ字ハ「法令違反」ト云フコトニ係ルノデアリマス、「違反」トハ極メテ通俗的ニ、一回ノ場合ハ違反スル、少クモ二回以上法令ニ違反スル、斯ウ云フ意味ノ違反デアリマス、然ラバ「安寧秩序ヲ紊リタルトキ」ト云フコトハ一體ドウ云フコトカ、是モ常識デハ直グ分ル言葉デアツテ、而モ之ヲ適切ニ解釋スルコトガムツカシイ言葉ダト思ヒマスガ、普通ニハ公共ノ安全、經濟、社會、國家ノ普通常軌ノ秩序、斯ウ云フ意味ニ取ツテ居ルノデアリマシテ、例ヘバ人心ヲ惑亂スルコトカ、或ハ人心ヲ混亂シテレハヤウナ場合ヲ、此ノ安寧秩序ノ文字ニ盛ツテ居ル譯デアリマス、御承知ノ通り治安警察法ガナクナリマシタ結果、結社ノ解散ハ非常ニムツカシクナツテ居ルノデアリマス、併シナガラ労働組合ノ場合ニ於テハ、特ニ斯ウ云フ手續ヲ經テ組合ノ解散ヲ爲スコトガ出來ルト云フノデアリマスカラ、解散ヲ爲ス場合ノ手續ハ、條件ニ於テモ、又手續ニ於テモ相當制限シテ、嚴重ニシテ置ク必要ガアルト云フコトカラ、労働委員會ノ申立ニ依ツテ裁判所ガ解散ヲ命ズル、而モ其ノ理由トシテ、違反法令ニ違反シ安寧秩序ヲ紊リタルト云フ場合ニ限ラウト云フ趣意デアリマス

○子爵梅園篤彦君 只今ノ御説明デ大體了承致シマシタガ、今ノ趣意ハ、御説明デハ二回デモ屢々ダト云フ風ニ了解致シマシタガ、ソレデモ宜イノデアリマスガ

○國務大臣(青田均君) 御説明ノ通りデ

アリマス

○子爵梅園篤彦君 モウ一點御伺致シタイト思ヒマス、二十五條ニ「調停又ハ仲裁ヲ行ハザル場合ノ外」トアリマスルガ、此ノ「外」ト云フコトヲ若シ資本家側ノ方ヲ濫用致シマシタ場合ニハ、結局ストライキヲ禁止シタト同ジヤウナ結果ナルヤウニ考ヘラレルノデアリマスガ、若シサウ云フ結果ヲ生ジ得ル際ガアルト致シマシタナラバ、其ノ濫用防止策ト申シマスガ、濫用防止對策ト申シマスガ、サウ云フ風ナモノガオアリニナルノデアリマスガ、伺ヒタイト思ヒマス

○國務大臣(青田均君) 二十五條ニアリマス趣意ハ仲裁ノ手續ハ、相當慎重ニ之ヲ取リ行フコトニナツテ居リマシテ、其ノ主タル役目ヲ務メルノハ、第一章ニアル労働委員會ガ之ニ當リマシタ、尙此ノ労働爭議ノ調停ニ付キマシテハ、現行ノ労働爭議調停法ガ之ヲ規定シテ居ルノデアリマス、併シ現在ノ爭議調停法ハ少シ立法ガ古クナツテ居リマシテハ、今日ノ事態ニ適切デナイ部分モアルト考ヘマシテ、目下其ノ改正準備ヲ致シテ居リマス、此ノ次ノ議會ニハ労働爭議調停法ノ改正案ヲ提出致シマシテ御協賛ヲ仰グコトト思ヒマスガ、サウ云フ慎重ナ手續ヲ經テ調停又ハ仲裁ニ付スルノデアリマスルカラ、ソレガ成功シタカ、シナイカト云フコトハ、ハツキリト何人ニモ分ルヤウニナツテ居リマス、從ツテ事業主ガ自由ニ、調停ガ出來ナカツタトカ、仲裁ガ不成立デアツタカラト云フコトヲ理由ニ、無理ナ要求ヲ起スコトハ出來ナイト、斯様ニ解釋シテ居リマス

○子爵梅園篤彦君 尙二、三伺ヒタイコ

トガゴザイマスルガ、今日ハ此ノ程度ニ致シマシテ、私ノ質問ハ打切りマ

ス

●子爵齋藤實君 二條ノ四條トノ關係ヲ見マス、一般ノ官吏ハ政治運動ガ出來ル云フコトヲゴザイマセウカ

●國務大臣(青田均君) 第四條ノ規定ニ書イテアリマス通り、本法ノ適用ニ付命令ヲ以テ別段ノ定メ爲スコトヲ得、ト云フノハ、詳細ノ事項ヲ勅令ニ委任スルコトヲ意味デアリマスガ、勅令ノ豫定事項ノ中ニ、政治運動ニ付テハ、労働委員會ノ決議ニ依ツテ、行政官廳ニ於テ禁止又ハ制限ヲ爲スコトヲ得ルヤウニ定メル豫定デアリマス、從ツテ官吏トシテモ、公共事業ニ從事スル現業ノ職員、鐵道ノ職員デアリマス、一般ノ行政官トノ間ニ、差別ヲ付ケル必要モアルト思ヒマス、政治運動ヲ爲ス程度ニ付キマシテハ、多少ノ差ハ必ズ出來テ來ルト思ヒマスガ、總テ之ヲ禁止スルコト云フ趣意ニハ考ヘテ居リマセウ

●子爵齋藤實君 同盟罷業ノ點デゴザイマスガ、官吏ニ於キマシテ色々種類ガゴザイマシテ、御承知ノ通り、公共事業ニ携ツテ居ル者ガゴザイマスガ、サウ云フ者ガ同盟罷業ガ出來ルコトニナルノデアリマセウカ

●國務大臣(青田均君) 御答ヘ致シマス、先程申上ゲマシタ第四條ノ命令ノ豫定事項ノ中ニ、第一ニハ是等ノ官吏、公吏、之ニ準ズル者ハ、其ノ爭議ヲ調停又ハ仲裁ニ掛ケテ、ソレガ成功シナカッタ場合ノ外ハ、爭議行爲ヲ爲スベカラズト決メル豫定デアリマス、第二ニハ、斯様ノ爭議ヲ爲シ又ハ爲ス虞ガアル時ニハ、行政官廳ガ之ニ對シテ

必要ノ場合ニ爭議ノ中止命令其ノ他ノ命令ヲ發スルコトガ出來ルコト云フ規定ヲ置ク考デアリマス

○子爵齋藤實君 爭議等デ問題ニナリマスノハ、賃金問題ガ何レ主體トナツテ來ルノデハナイカト思ヒマスケレド、賃金問題ノ檢討ニ當リマシテハ、生計費トカ、生計費指數トカ云ツタヤウナ、各種ノ統計ガ必要ニナツテ來ルノデハナイカト思ヒマスガ、在來日本ノ統計ト云フモノハ可ナリ杜撰ナモノガ多イデアリマシテ、此ノ度ノ敗戦ヲ喫シマシタ後ニモ、恐ラク斯ウ云フコトガアルノデハナイカト思ヒマス、

「アメリカ」ニ於キマシテハ統計ガ非常ニ發達シテ居リマシテ、計費經濟ヲ致スニ付キマシテモ、活キ資料、「アツ・ウ・デー」トナ統計ニ依リマシテ、色々計畫ガナサレテ居ツタノデト存ジマス、日本ニ於キマシテハ、サウ云フ「アツ・ウ・デー」トナ統計ガナイト云フ爲メ、色々所ニ「ネック」ガ出來タリ、物ガ溜ツテシマツタリ致シマシテ、圓滑ニ運営ガ出來ナカツタノデナイカト存ジマス、斯ウ云ツタ點デゴザイマスガ、今迄ハ科學其ノモノノ振興ト云フモノモ叫バレタト思ヒマスガ、政治行政ノ上ニ科學ト云フモノガマダ發達シテ居ラナカツタト云フ點ガ多クアルノデハナイカト存ジマス

○國務大臣(青田均君) 只今齋藤子爵ノ賃金問題及ビ之ニ附隨スル統計ニ關スル御意見ハ、御説ノ通りデアリマシテ、私モ全然同意デアリマス、御承知

ノ通りニ賃金ヲ定メマスノハ、中央賃金委員會ニ於テ一應ノ決定ヲ爲スノデアリマスガ、其ノ基礎トナルベキ統計ガ甚ダ正確デアリ、又其ノ事態ニ適シナイモノガ多イコト云フ御考モ、正ニ其ノ通りデアリト思ヒマス、無論今日ノ如ク物價ノ變動ノ非常ニ激シイ時代ニ於テ、又其ノ物價ガ土地ニ依ツテ、地方ト中央、大都市トノ間ニ非常ナ差ガアルヤウナ時代ニ於キマシテハ、適宜賃金ノ決メルコトガ非常ニ困難デア

ルコトハ、一應想像ガ出來ルノデアリマス、從ツテ労働組合ノ發布ニナリマシタ以後、特ニ調査機關ヲ設ケル計畫ヲ致シテ居リマシテ、其ノ事ハ、此ノ法文ノ中ノ労働委員會ノ任務トシテ、第二十七條ノ列記ノ中ニ掲ゲテ居

リマス、出來ルデケソレ等ノ調査機關ニ依ツテ適切ナ統計ヲ作り上ゲ、賃金決定ノ基礎ニ致シタイト考ヘテ居リマス

○子爵齋藤實君 速記ヲ止メテ戴キタイト思ヒマス

○委員長(河原田稼吉君) 速記ヲ止メテ

(速記中止)

○委員長(河原田稼吉君) 速記ヲ始メ

テ

○子爵齋藤實君 統計ヲ御使ヒナリマス上ニ、在來ノヤウナ統計ノ使ヒ方デナク、又作成方デナク、モット近代

的ナ統計資料ノ集メ方、統計ノ作成方ヲ使ツテ戴キマシタラ、如何カト存

ジマス

○國務大臣(青田均君) 只今專門家タリ齋藤子爵カラ、統計ノ問題ニ付テ、極メテ適切ナル御質問ヲ拜讀致シマシテ、全ク御意見ノ通りダト思ヒマス、日本ニ於キマシテハ、民間ノ一二ノ有

力ノ會社デ機械ヲ据付ケテ居ル程度デアリマシテ、官廳方面ニ於テハ遺憾ナ

ガラ、マダ今日迄新機械ヲ使用シテ居

ルモノガ少數デアリマス、之ガ爲メ最

近ノ有權者調査等ニ於テモ、相當ノ日

子ヲ要スルヤウナ現實ノ例ガアルノデ

ゴザイマス、政府ト致シマシテモ其ノ

點ハ痛切ニ、至急施策ヲ爲スベキ必要

ヲ感ジテ居リマス、精々之ガ實現ニ努

力致ス決心デアリマス

○子爵齋藤實君 只今ノ大臣ノ御答辭

ニ依リマシテ、私ハ満足致ス者デアリ

マス

○子爵梅園篤彦君 御發言ガナイヤウ

デアリマスカラ、一點ダケモウツ伺

ヒタイト思ヒマス、第二十四條ニ「一

ノ地域ニ於テ從業スル同種ノ労働者ノ

大部分ガ」トアリマスガ、此ノ大部分

ト云フコトヲ、前條ノ第二十三條ニハ

「同種ノ労働者ノ數ノ四分ノ三以上」

ト云フコトニ明記シテ居リマス、此

ノ第二十四條ノ分モ、四分ノ三以上ト

云フ風ニ明記シタ方ガ、條文ノ體裁上

宜イヤウニ思フノデスガ、之ヲワザ

ワザ大部分トボヤカシテアリマスノ

ハ、何か特別ノ理由ガゴザイマスノデ

スカ

○國務大臣(青田均君) 第二十四條ニ

ハ一定ノ地域ニ於テ從業スル同種ノ勞

働者ト云フコトニナツテ居リマシテ、

必ズシモノ工場、事業場ニ使ハレル

労働者ト云フノトハ同ジ形デ出テ居

イデアリマス、從ツテ、例ヘバ横濱

地域ニ於テ同種ノ事業ニ從事シテ居

ル者ガ、アチラコチラニ分レテ仕事ヲシ

テ居ル、サウ云フ際ニ之ヲ正確ニ四分

ノ三ト云フ數字ニ調ベ上ゲルコトニ

ハ、相當ノ時日ヲ要スル場合ガアリマ

シテ、事實四分ノ三ト云フ數字ヲ合

シデ問題ヲ決定スル心持デアリマス

ケレドモ、ハッキリ之ヲ四分ノ三ト書

クコトニ多少ノ困難ガアリマスノデ大

部分ト云フ字ヲ使ツタデアリマスガ

ガ、併シ實際ノ適用ニ於テハ略々四分

ノ三以上ト云フ數字ヲ據ンデ問題ヲ決

シタイ、斯様ニ考ヘテ居ル譯デアリマ

ス

○子爵梅園篤彦君 了承致シマシタ

シタ此ノ表ヲ拜見シテチヨット不審ニ

思フノデスガ、年次別労働組合數及組

合員數調」ト云フノヲ今直轄シタノデ

スガ、明治四十年ガ組合數ガ四十、ソ

レカラズツト殖エタリ、減ツタリシテ

居リマスガ、昭和十四年ニ五百十七モ

アツタ譯デスガ、是ハ昭和十五年ニハ

四十九、ズット減ツテ居ル、ソレカラ

又ズット一番下ノ労働組合ノ組織率ト

云フモノヲ見マス、大正十三年デス

カ、五、三ト云フノガ、昭和十五年ニハ

〇、一ニナツテ居ル、尙註ノ所ヲ讀ン

デ見マス、昭和十五年ニ於テ殆ト壞

滅シタ、ソレカラアトハ有名無實ノモ

ノトナレリ、之ニ付テ、ドウ云フ是ハ

關係ガアルノデスカ、私一向承知シマ

セスガ、チヨット大略ノ御説明ヲ願ヒ

タイト思ヒマス

○政府委員(高橋彌瀨君) 此ノ表ノ御

説明ヲ申上ゲタイト思ヒマス、我が國

ノ労働者ガ労働組合ニ組織サレテ居

ル率ハ、非常ニ少ウゴザイマシテ、

御承知ノヤウニ「イギリス」ハ約七割位

入ツテ居ルサウデゴザイマスガ、本邦

ニ於キマシテハ非常ニ少ウゴザイマ

ス、一番多イ年ガ、此ノ表ニアリマス

ヤウニ、昭和六年ノ七、九「パーセント」

ガ一番多ウゴザイマシテ、ソレカラズ

ツト減ツテ居リマス、サウシテ昭和十

三

五年ニナリマシテハ、只今御述ニナリマシタヤウニ、〇一「パーセント」サウ云フ風ナエ合ニ、殆ド労働組合ニ加入スル者ガナイト云フ風ナコトニナツテ居リマス、ソレハ御承知ノヤウニ、此ノ大東亞戦争ニナリマシテカラ、産業體制ガ産業ニ段々ナツテ参リマシテ、殆ド此ノ労働組合ノ結成ト云フモノガナクナツタノチアリマス、サウシテ此處ニアリマシヤウニ、労働組合ハ昭和十五年ニ殆ド壊滅シ、以來有名無實ノモノトナツタノチアリマス、一面ニ於テ此ノ労働組合ガズツト減ツタト云フコトハ、全部産業ノ傘下ニ殆ド入ツタト云フコトヲ意味スルモノト存ジマス

○子爵秋元春朝君 今ノニ關聯シマシテ、十九年六月ノ末ニ三ツノ組合ガ殘ツテ居リヤウニ此處ニアリマスガ、ソレカラ又本年六月ト云フノハ、是ハ二十年ノコトダラウト思ヒマスガ、此處ノ所ハドウナツテ居リマスガ、御伺シタイ

○政府委員(高橋彌彌君) 本年ト云フノハ御述ニナリマシタヤウニ昭和二十年デゴザイマス、二十年六月ニ其ノ報告ガナクナツタ所見マス、全部消滅シタト、斯ウ云フ風ニ解釋シテ居リマス

○子爵秋元春朝君 ソレカラ今一點御伺シテ見タイ思ヒマスノハ、此ノ法案ガ出来マス、全部皆此ノ法案ニ順次從フ譯デアリマセウガ、現在運輸省ニハ現業委員會ト云フモノガアリマシ、又運輸院ノ方ニモ、今何ト言フテ居リマスカ知ラヌガ、遞友會ト言ヒマスカ、海員組合トカ、ソレカラ大蔵省ニモ、多分煙草ヤ何カノ方ニハ、女工デスカ、何カノ組合ガアル、サウ云

フ風ニ色々官廳ノ方デヤツテ居ラレ、組合法ニ準ジタヤウナ諸種ノ規定ト云フモノガアルト思ヒマス、ソレト、是ガ今度出来ルト、ドンナ關係ニナリマスガ、極ク概略デ宜シウゴザイマス

●國務大臣(青田均君) 第四條ノ規定ノ中ニハ、現業官廳ノ勤務者ノ労働組合結成ノ自由ヲ認メテ居ル譯デアリマス、唯其ノ爭議行為ニ付テハ種々ノ制限ヲ受ケマスケレドモ、労働組合ノ組織シテ、之ニ加入スル上ニ於テハ、普通ノ鐵山若シクハ工場ノ労働者ト、何等差ツタ點ハナイノデアリマス

○子爵秋元春朝君 了承致シマシタシテチヨット伺ヒタイト思ヒマス、今秋元子爵ノ御尋ノ、遞信院トカ、或ハ運輸省デアルトカ、現業委員會其ノ他ノモノヲ、ソレハ此ノ法案ガ出来マシレバ、詰リ第四條デ役人ナドノ労働組合ガ出来マスケレドモ、今アルノヲ成ルベクソツチノ方ヘ向ケテ行クト云フ方針デアリマスガ、或ハソレハ其ノ儘ニシテ、別ニ運輸省、遞信院ニ於ケル労働組合ヲ認メテ行クカ、詰リ是ハ同ジ政府ノ統轄ノ下ニアリマスカラ、ドウ云フ御方針ニナリマスガ

合ノ労働組合ニ直ス場合ト雖モ、福利施設ダケハ別ニ共済組合デ以テ行カウ、斯ウ云フ考ヘガ強イノデアリマス、マダ併シ最終ノ決定ハ致シテ居リマセウ

●委員長(河原田稼吉君) 序デニ御尋ネ致シマス、第一條ニ労働組合ト云フモノノ大體目的ヲ御尋ネナリマシタガ、労働組合ノ基本觀念ト云フモノハ、ドウ云フ所ニ置イデアリマスガ、從來労働組合ト云フモノハ、要スルニ労働者一人、事業主一人、資本家一人トシテ、個人的ニ人間トシテハ對等ダケレドモ、併シ經濟其ノ他ノ點ニ於テハ比較ニナラヌ、ソコデ團體ヲ通ジテ、サウシテ澤山ノ力ニ依ツテ、經濟上ノ力ヲ持ツテ居ル事業主ト相對シテ、サウシテ其ノ間ノ問題ヲ解決シテ行カウ、斯ウ云フ風ニ言ハレテ居ルノデアリマスガ、矢張り本法案御制定ノ根本的ナ御趣旨ハサウ云フ所ニアリマスガ、其ノ邊ノ所ノ伺ヒタイト思ヒマス

●國務大臣(青田均君) 只今御質問ノ通り、此ノ労働組合法ニ於キマシテモ、主トシテ資本家ニ對シテ弱イ立場ニ居ル労働者ヲ平等ノ立場ニ於テ交渉ヲ行ハシメルニハ、労働者ノ團結權ヲ保障シナケレバナラヌ、其ノ團結權ヲ保障ニ依ツテ、労働條件ヲ協定スル場合ニ、團體交渉權ヲ認メナケレバナラナイ、サウシテ其ノ出来上ツタ労働協約ニ基イテ、兩者ノ間ニ調停ニ仕事ヲ進行シナイヤウナ場合、即チ労働爭議ノ發生スル場合ニハ、之ヲ解決スルベク發生シナイヤウニ豫防シ、又發生シタ場合ニハ、公平ニ調停ニ爭議ヲ解決セシメルト云フ、任務ヲ公平ナ機關ノ手ニ任セルコトニシナケレバナラヌ、ソレガ労働委員會ト稱スルモノヲ設ケテ、勞資ノ雙方並ニ中立ノ代表者カラ成ル常設機關トシ、其ノ權限ヲ出来ルダケ廣ク規定シテ行カウト考ヘタノデアリマシテ、只今御質問ニナリマシタ趣意ト全然合致シテ居ル譯デアルト思ヒマス

●委員長(河原田稼吉君) 序デニ、第二項ノ方ノ「労働組合ノ團體交渉其ノ他ノ行為」ト云フ、其ノ他ノ行為ト云フノハ、ドウ云フコトヲ稱シテ言ハレルノデアリマスガ

●國務大臣(青田均君) 此ノ場合特ニ問題ニナリマスノハ「ビケツチンダ」、見張、立番ト申シマスガ、ソレヲ適法ノ行為ト認メルト云フコトデアリマシテ、此ノ點ハ我が國ニ於テモ相當論議ヲ惹起シテ居ツタト思ヒマスガ、極ク緩和ナル行為ニ依ツテ他人ヲ勸誘スル、例ヘバ罷業ヲ得得スルト云フ程度ノ行動ハ、之ヲ適法ナル行為ト認メル譯デアリマシテ、特ニ「ビケツチンダ」ノ問題ガ、第二項ノ其ノ他ノ行為ニ中ノ最も顯著ナモノト思ヒマス

●委員長(河原田稼吉君) サウシマス、今ノ「ビケツチンダ」ト云フヤウナモノハ、或ハ労働組合ヲ作ラナイ未組織労働者ガ何カ爭議ヲ起シタ場合ニ、サウ云フ場合ニモ、サウ云フ見張行為ヲヤツタリ何カスルヤウナコトガ起リ得ルト見ナケレバナラナイノデアリマスガ、サウ云フ場合ニハ刑法第三十五條ノ規定ハ適用シナイ、詰リソレハ労働組合ノ其ノ行為ダケガ保護サレル、臨時ノ爭議ヲヤツタ場合ノモノニ付テハ、保護ハ受ケナイト了承シテ宜シウゴザイマスガ

●國務大臣(青田均君) 此處ニ書イテアリマスノハ、「團體交渉其ノ他ノ行為」トアリマスガ、併シ労働組合ナラザルモノノ交渉若シクハ「ビケツチンダ」ノソレヲ特ニ禁ジテ不當ノ行為、不法行為ト認メルト云フ趣意デハナイノデアリマシテ、斯様ナ場合デモ、第二項ニ定メタ行為デアラナラバ、之ヲ刑罰ノ對象トハシナイ、斯ウ云フ意圖デアリマス

●委員長(河原田稼吉君) 私ハ實ハチヨット今通讀シマシテ、今ノ第一條ノ第二項ノ問題、ソレカラ第十二條デアリマスガ、「同盟罷業其ノ他ノ爭議行為ニシテ正當ナルモノニ因リ損害ヲ受ケタルノ故ヲ以テ労働組合又ハ其ノ組合員ニ對シ賠償ヲ請求スルコトヲ得ズ」是モ矢張り想像シテ見マス、労働組合ヲ作ラナイ團體、所謂未組織労働者ノ側ニ於テモ臨時「ストライキ」ヲ起ス場合ガアル、サウ云フ場合ニハ、其ノ間ニ事業主側ニ對シテ及シタ損害ノカト云フモノニ對シテ、矢張り賠償ノ責任ガアルノカドウカ、ソレデケ見マス、労働組合ノ所謂特權ヲ、労働組合以外ノモノノサウ云フ爭議行為ト云フモノハ、十二條ノ保護ヲ受ケナイ、特權ヲ受ケナイト、斯ウ云フ風ニ解釋サレルヤウニ思フノデアリマスガ、是ハ如何デアリマスガ

●國務大臣(青田均君) 第十二條ノ規定ハ、實ハ念ノ爲ニ置イタ規定デアリマシテ、正當ナル行為ヲシテ、ソレガ損害賠償ヲ要求サレルト云フコトハ、民法ノ原則ニモナイノデアリマスガ、本來ナラバ、爭議行為ガ正當ダト認メタ以上、正當ナル行為ニ因ツテ何人モ損害賠償ヲ要求サレル理由ハナイ、斯ウ云フノデアリマスガ、特ニ労働組合ヲ保護スル立場カラ、分リ切ツタコトヲ念ノ爲ニ書イタモノト御讀ミ下サレバ、其ノ邊ノ事情ハハツキリ分ルト思ヒマス

○委員長(河原田稔吉君) サウシマス
ト、此ノ規定ハ、所謂労働組合デナイ
モノニ付テモ、矢張り此ノ保護ヲ受ケ
ル、斯ウ云フ風ニナル譯デアリマス
○國務大臣(青田均君) 御見解ノ通り
デアリマス

○委員長(河原田稔吉君) 私ハチヨツ
ト通讀シマシテ、第一條ノ第二項ノ規
定及第十二條ノ規定ヲ特ニ労働組合ニ
對シテ設ケル、サウシテ所謂労働組合
ニ對スル特別ノ保護ト云フモノヲ拵ヘ
テ、成ルベク労働運動ト云フモノハ勞
働組合デ行ケ、外ノ組織ヲシナイモノ
ハソレダケノ保護ヲ受ケヌゾ、斯ウ云
フ風ナ御趣旨、即チ労働組合ト云フ
モノヲ助長スルト云フ趣旨ニ於テ、他
ノ未組織労働者トノ間ニ、斯ウ云フ保
護ノ點ニ付テノ區別ヲ設ケタ、斯ウ云
フ風ニ實ハ通讀シテ了解シタノデス
ガ、サウデハナイノデゴザイマセウカ

○國務大臣(青田均君) サウ云フ趣意
デハアリマセヌゾデス、唯労働組合ニ
關スル法律ヲ此處ニ並ベタモノデアリ
マスカラ、偶々斯ウ云フ規定ガ入ッ
ト云フニ過ギナイノデアリマシテ、未
組織労働者ト雖モ、第一條第二項並
第十二條ノ規定ニ於テハ、少シモ差別
ハナイノデアリマス

○委員長(河原田稔吉君) サウスル
ト、チヨツト斯ウ云フ感ジガアルノデ
スガ、是ハ形式ノ問題カモ知レマセヌ
ガ、是ハ第一條ノ第二項ト第十二條ハ、
各ノ労働爭議等ニ關スル規定デアリマ
スノデ、寧ろ是ハ労働組合法ニ規定セ
ラルベキモノデナクシテ、労働爭議調
停法トカ或ハ労働爭議法ノ中ニ、組織
労働者デアラウガナカラウガ、是ダケ
ノ保護ハ受ケルゾト云フヤウニ規定サ
レタ方ガ適當デナカッタカト云フヤウ

ナ感ジガシマスガ、如何デゴザイマス
カ

○國務大臣(青田均君) 成ル程御説
ノ通り、労働爭議調停法ニ掲ゲルコトモ
適切カト思ヒマスガ、此ノ法律ノ目的
自體ガ、從來比較的惠メナカッタ、
時トシテ行キ過ギノ彈壓ヲ蒙ツタ労働
者ノ立場ヲ、安心ノ行ク程度ニ規定シ
テ置カウト云フ趣意デ出来タモノデア
リマスカラ、ソレ等ノ労働者ニ將來ノ
安心感ヲ與ヘ、又希望ヲ持タシメル
ト云フ意味ニ於テ、労働組合法ノ中ニ規
定スル方ガ適當デアラウト考ヘタ譯デ
アリマス

○委員長(河原田稔吉君) サウシマス
ト、矢張り將來、現行ノ労働爭議調停
法ヲ改メテ時勢ニ應ジタ規定ヲ御設
ケタル場合ニ、同ジヤウナ趣旨ヲ矢張
リ其ノ中ニ御規定ニナリマスカ、或
ハ此ノ條ヲ御讀マシニナリマスカ

○國務大臣(青田均君) 労働爭議調停
法ニハ此ノ種ノ規定ヲ設ケル必要ハナ
イト考ヘテ居リマス、現在ノ労働爭議
調停法ニモ斯ウ云フ規定ハナイノデ爭
議調停ノ手續ニ眼目ヲ置ク方ガ爭議調
停法トシテハ適當デアッテ、成ルベク
實體ノ問題ハアノ中ニ取扱ハナイ、
斯ウ云フ考ヘデ進行シテ居ル譯デアリ
マス

○委員長(河原田稔吉君) サウシマス
ト、此ノ労働組合、即チ労働團體ヲ作
ツタ場合ノ特別ノ利益ト申シマスカ、
保護ト言ヒマスカ、即チ未組織労働者
ニ比ベルト、ドレダケノ特典ガアル
ト云フヤウナ事項ハ、ドウ云フコトニナ
リマセウカ、詰リ此ノ労働組合法ニ依
ラズシテモ、所謂集會、結社ノ自由ト
云フモノガアルノデアリマスカラ、特
別ニ此ノ労働組合法ヲ作ル場合ニハ、

特ニ此ノ労働組合ナルガ故ニ特別ノ利
益ガアツテ然ルベキ譯ト云フヤウニ思
フノデアリマスガ、此ノ二ツノ事項ヲ
除キマス、其ノ外組合ヲ作ルコトニ
依リ利益ト云フモノハ、ドウ云フ所ニ
アリマスカ

○國務大臣(青田均君) 労働組合ノ多
數ノモノハ法人格ヲ取得スルデアラ
ウト想像シマス、從ツテ未組織労働者
ト違ツテ、法人タルモノノ享有スル利
益、例ヘバ免稅ノ規定ニ依リマシテ、
法人タル労働組合ハ大體産業組合ニ準
ジタ免稅ノ特點ヲ得ルト云フコトガ、
第十八條ニ書イテアリマス、又法人タ
ル性質上、労働組合ハ團體トシテノ財
産ノ處分、法律行為ヲスルコトガ出来
ルノデアリマスカラ、所有財産等ノ
處分ニ付テモ、極メテ明確ニ團體トシ
テノ利益ヲ得ル譯デ、未組織労働者ヨ
リモ一層財産ノ保全、處理等ニ付テモ
明確ニスルコトガ出来ルト思ヒマス、
又第十條ノ團體交渉權ヲ行使スル場合
ニ労働組合ノ代表者ガ使用者ト労働協
約ヲ結ブコトニナツテ居リマスカラ未
組織労働者ニ較ベテ、是等各方面ノ利
益ハ相當顯著ニ現レテ居ルト思フノデ
アリマス

○瀧川儀作君 労働組合以外ノ労働者
ヲ御調ベニナツタモノガアリマスカ、
完全ナモノデナクテ宜シノデスガ、
或ハ戰爭中ニ働イタ徵用工モアリ、學
徒モアリマセウガ、ソレデナシニ労働
者モ相當アルト思ヒマスガ、御取調ベ
ニナツタモノガアリマスカ、今日デナ
クテモ宜シウゴザイマス

○政府委員(高橋庸平君) チヨツト御
説明申上ゲマス、十二月十二日現在ニ
於キマス労働組合ノ結成状況デアリマ
スガ、只今ノ處十二月十二日現在デ合

計六十五労働組合ガアリマス、其ノ中
ニ入ッテ居ル労働者ノ數ハ七萬七千名
デアリマス、爾餘ノ労働者ハ、只今ノ
處労働組合ニ入ッテ居ナイ現狀デアリ
マス、併シナガラ今殆ト結成スル機運
ガ醸成シテ參リマシテ、準備中若シク
ハ結成セムトスル組合ガ相當アル模様
デアリマス、サウ云フ意味デアリマセ
ウカ

○瀧川儀作君 サウデス
○大野綠一郎君 今日ノ本會議ニ於
テ、秋田君ノ御質問ニ對シテ厚生大臣
ノ御答辯ガアリマシタガ、併シ疑惑ヲ
生ズルヤウナ處ガアルト思ヒマスノ
デ、更ニ私ハ明カニ其ノ點ヲ説明ヲシ
テ戴キタイト思ヒマス、私ハ速記録ヲ
讀ミマセヌカラ分リマセヌガ、使用者
ト労働者側ト労働協約ニ於テ賠償ヲス
ルト云フ協約ヲ結ンダ場合ニハ、其ノ
賠償ヲスルコトニナルカラ差支ナイ、
ト云フヤウナ答辯ヲサレタヤウニ伺ヒ
マシタガ、左様ナ協約ガ此ノ労働組合
ノ法制ノ上カラ許サルベキモノトハ私
ハ思ハナイノデスガ、何カ御言葉ノ御
間諺ヒデハナイカト思ヒマス、此ノ機
會ニ御説明ヲ願ヒタイト思ヒマス

○國務大臣(青田均君) 大野君ノ御説
言ノ通り、本日ノ本會議ニ於ケル私ノ
答辯ハ、言葉ガ甚ダ不完全デアツタコ
トヲ發見致シマシタノデ、此ノ機會ニ、
正確ニ其ノ點ヲ重ネテ御答ヘ致シテ置
キマス、労働協約ニ於テ爭議ヲシナイ
ト云フ義務ハ、労働者及使用者双方ニ
アル譯デ、ソレニ違反シタ場合ニ、勞
働組合側ノミガ損害賠償ノ責任ニ任ズ
ルト云フコトハ、權衡ヲ失スルト云フ
コトガ一ツノ點デアリマス、第二ニ其
ノ協約ノ違反ニ付テハ、當事者ノ協議
ニ依リマシテ、自由ノ制裁條項、ト

申シマス、法律上ノ損害賠償デナク、
例ヘバ何箇月間ノ賃金ヲ何割引ニスル
ト云フ如キ條項ヲ決定スレバ、第二十
一條、第二十二條ノ規定ニ依ツテ其ノ
制裁條項ハ有效デアリマスカラ、特ニ
法律ヲ以テ損害賠償ノ規定ヲ設ケル必
要ガナイ、斯様ニ解釋致シテ居ル譯デ
アリマス

○大野綠一郎君 從ツテ労働協約ニ於
テ、賠償ヲ拂ヘト云フ協約ハ出来ナイ
ト云フ御趣旨デスネ

○國務大臣(青田均君) 御話ノ通りデ
アリマス
○男爵肝付兼英君 先般「ジュネーウ」
ニ於テ「ダブリニエ・エフ・ユー」詰リ
「ワールド・フエデレーション・オウ・ト
レイド・ユニオン」ト云フモノガ結成サ
レマシテ、世界五十數箇國ノ労働組合
ガ加入シ、唯「ドイッ」ト日本ダケガ入
ッテ居ナイヤウデアリマスルガ、此
ノ組合ノ宣言ノ中ニ、將來「ドイッ」ト
日本ニ斯ウシタ組合ヲ結成スルコト、
同時ニ其ノ労働者ノ福祉ヲ高メル爲ニ
大イニ協同的ニ應援スルノダト云フヤ
ウナ宣言ヲ發シテ居ルヤウナコトヲ聞
イテ居リマス、何レハ日本モ將來許サ
レル場合ニハ、此ノ世界労働組合協同
會トデモ申シマスカ、之ニ加入スル前
提トシテハ是ハ基礎案デアルト云フ風
ニ御考ニナツテ居ルノデゴザイマセウ
カ、御伺シタイト思ヒマス

○國務大臣(青田均君) 御承知ノ如
ク、只今聯合國ノ労働組合聯合會ガ開
催シテ居リマス會議ハ、彼等ノ所謂平
和愛好國ニ限ツテ招請ヲ發シテ、會議
ヲ開イテ居ルノデアリマシテ、聯合國
ノ立場カラ言ヘバ、「ドイッ」、日本其
ノ他二三ノ國ハ、未ダ真正ノ意味ニ於
ケル平和愛好國デハナイト云フ譯カ

ラ、招請ヲ發シナイノデアリマス、併シナガラ新シク生レ變ツタ日本ガ平和愛好國家デアリコトノ事實ヲ彼等ガ認メタ曉ニハ、無論其ノ組合カラ招請ヲ發スルデアリマセウシ、又我ガ方トシテモ、既ニ「グネルサイニ」條約締結後、國際労働會議ニ有力ナ構成員トシテ參加シテ居ツタコトニ鑑ミ、是等ノ組合ノ國際的機關ニ參加スベキハ固リ當然ノコトト考ヘテ居リマス、唯ソレガ如何ナル時期ニ參加スルコトニナカノ點ニ付キマシテハ、今日カラ豫メ之ヲ豫定スルコトハ困難ト考ヘテ居リマス

○男爵肝付兼英君 只今ノヤウナ御話ニ依リマス、何レハ日本ノ労働組合モ、世界の労働組合トシテ活動スベキ場面ガ来ルト考ヘラレマスガ、サウスレバ、其ノ基準ト云フモノハ、自然世界的ノ基準ニ迄高メラレルト云フコトガ當然考ヘラレルノデアリマス、元來御承知ノヤウニ、日本ノ非常ニ資源ノ少イ、而モ生活ノ程度ノ極ク貧弱ナル産業ノ發展ノ過去ヲ顧ミマス時ニ、日本ノ生産品ガ世界的ニ雄飛シタト云フ一ツノ原因ハ、労働資金ガ安カッタト云フ所ニアツタコトハ御承知ノ通りデアリマス、ソレガ労働者ノ生活ノ安定ヲ缺キ、或ハ福祉増進ノ爲ニ甚ダ害ヲ爲シタト云フコトガアルカドウカ知りマセヌガ、併シナガラ日本ノ商品ノ發展ノ一面ニハ、労働者ノ賃金ノ安カッタト云フコトガ大イニ效果デアツタト云フ事實ハ、確カニ認メラレルト思フノデアリマス、此ノ労働組合法ガ制定サレマシタ結果トシテハ、當然賃金ヲ或程度迄ドウシテモ上ゲナケレバナラヌト云フ結果ニナリ、又資本家ガ上ゲタクナクモ、此ノ法律ノ内容カ見マ

スレバ、ドウシテモ労働者ノ意思ガ或程度ハ通ルト云フ風ニ考ヘラレルノデアリマスガ、労働者諸君勿論最近ノ非常ナ知識ノ向上ニ依リマシテ、總テ世界ニ目ヲ通シテ日本ノ立場ト云フモノヲ理解シテ居ルコトデアアラウト思ヒマスガ、今日ノ所謂民主主義の傾向ノ波ニ乗ツテ、日本民族トシテノ國家形成ノ上ノコトヲ考ヘズニ、唯労働者自身ノ福祉増進ヲ主體トシテ産業人、或ハ使用者ノ挑戰シテ来ル場合ニ、國家全體ノ綜合的見地カラ言ヘバ、可ナリ偏頗的ナ結論ガ出テ来ルコトハ、私ハ起リ得ルト思フノデアリマス、從ヒマシテ斯様ナ労働組合法ヲ制定サレルニ當ツテハ、ドウシテモ國家其ノモノヲ綜合的ニ、立體的ニ御計畫ニナツテ、労働組合法ヲ片一方デ考慮スルト同時ニ、産業ニ對スル基礎的ナ法案ト云フモノヲ同時ニ檢討シテ行クト云フコトガ、當然必要ナ問題デヤナイカト考ヘルノデアリマスガ、今回労働組合法ノミヲ御制定ニナリマシテ、産業ニ對スル基礎法案ト云フモノガ未ダ出テ来ナイト云フコトハ、我々ガ労働組合法ヲ檢討スル上ニ、非常ニ片手落ノ考ガ致スノデアリマス、此ノ點ハドウ云フ

○國務大臣(青田均君) 肝付男爵ノ御發言ハ頗ル多クノ問題ニ關聯スルコトデアリマシテ、私ノ答辯ガ果シテ其ノ全般ニ御満足ヲ與ヘ得ルカドウカ、甚ダ心許ナイト思ヒマスガ、御説ノ通りニ、第二次世界戦争以前ニ於キマシテ、「イギリス」其ノ他ノ世界の貿易國ガ、我が國ニ對スル最モ深刻ナ攻撃ノ武器トシテ使ツタノハ、日本ハ常ニ「ソシアール・ダンピング」ヲシテ居ル、労働者ヲ搾取シテ安イ賃金デ使ツテ、之ニ

依ツテ他國ノ商品ト競争ヲ圖ツテ居ルト云フ如キ理由ヲ、相當物ノ分ツテ居ルベキ人々ガ公然ト論ジタノデアリマス、其ノ點ハ歸スル處、生活水準ノ問題デアリマシテ、生活水準ノ高イ國ト生活水準ノ低イ國トノ間ニハ、賃金ニ於テモ當然差別ガアルベキデアルニ拘ラズ、彼等ハ其ノ問題ヲ餘リ考ヘズニ、一途ニ賃金ノ問題バカリヲ論ジテ、日本ガ投資ヲシテ居ルトノ攻撃ヲ止メナカッタノデアリマス、從ツテ今後爲替ノ問題、及ビ日本國內ノ生活水準ノ問題ヲ考ヘテ見レバ、直グニ日本ノ賃金ガ「イギリス」、「アメリカ」ノ労働階級ノ實質的賃金ト同ジ水準ニ上ルトハ、チヨツト考ヘラレナイノデアリマス、ノミナラズ、我が國ノ輸出産業ノ長所ハ、勿論只今ノ御話ノ低賃金ト云フコトモ與ツテ力カアリマスケレドモ、綿絲、綿布ノ輸出ノ如キハ、ソレヨリ以上ニ我が國ノ常業者ガ原料ノ買付ニ巧ミデアリ、或ハ混棉ノ技術ニ特技ヲ持ツテ居ツタト云フコトモ相俟ツテ、彼等ノ市場ノ脅威シタノデアリマスカラ、必ズシテ日本ノ輸出業ノ特徵ガ、低賃金ノミニアツタト見ル必要モナイノデハナカラウカ、斯ウ云フ風ニ考ヘラレマス、併シナガラ労働組合法ヲ作ルコトガ直ニ労働者ノ賃金ヲ引上ケルコトヲ結論ニ行クトハ、全部當ツテ居ルトハ考ヘラレナイノデアリマシテ、労働爭議、賃金引上ノ交渉ハ、労働組合法ガ存在スルト否トニ拘ラズ、自然發生的ニ既ニ世間ニ出テ居ル問題デアリマシテ、此ノ組合法ノ制定ガ労働爭議ヲ類殺セシメルトカ、或ハ直ニ賃金ノ引上ニ落付クト云フ風ニハ考ヘテ居ナイノデアリマシテ、寧ろ今日ノ如キ労働爭議頻發ノ虞アル時

ニ於テこそ、斯様ナ法律ヲ制定シテ、労働階級ニ秩序ト整備アル行動ヲ行ハシメル、サウシテ彼等ノ將來ニ希望ヲ持タセル、自發的ニ自ら規律スル精神ヲ養ハシメル方ガ、爭議ノ發生ヲ防ギ、産業平和ノ上ニ有利デアル、斯様ニ考ヘテ本法ヲ制定シタ譯デアリマス、併シナガラ最後ノ御發言ニツタ、將來ニ於ケル日本ノ産業組織ヲドウスルカ、又平和産業ノ轉換ヲドウスルカト云フ重大ナ經濟問題ヲ「吾ヘテ居ル際ニ、其ノ政策ニ對スル政府ノ根本方針ガ明カデナイ時ニ、労働組合法ヲ審議スルコトハ幾多ノ困難デアルト」御説ハ、或程度理由ノアル御説ダと思ヒマスガ、御承知ノ通り、今日ノ日本ハマダ賠償問題ニ付テモ決定的ナ申込ヲ受ケテ居リマセヌ、軍需産業ノ賠償問題モ解決シテ居リマセヌ、海外ニ於テ失ツタ資産モ可ナリノ巨額ニ達シテ居リマス、サウシテ海外ノ貿易ノ自由サヘモ持タナイ、原料モ燃料モ足リナイ、サウ云フ際ニ、今直ニ日本ノ産業ノ復活ノ爲ニ有效ナル手ヲ打ツコトハ、可ナリ困難デアル、之ニ反シテ労働組合法ヲ制定スルコトハ、ソレ程困難ナ仕事デハナイノデアリマシテ、先ヅ易シイ所カラ手ヲ打ツタメニ最モ敏速ニ労働組合法ガ一應ノ案ノ成立ヲ見タ理由ダト考ヘテ居ル譯デアリマス、サウ云フ譯デアリマシテ、此ノ法律ヲ今日制定スルコトハ、産業平和ノ上ニ可ナリノ貢獻ヲスルノデハナイカト考ヘテ居ル譯デアリマス

イノデアリマスガ、此ノ労働組合法ノ内容其ノモノガ、將來ノ日本ノ産業ノ發展ト觀ミ合セ得ナイデ、一方のニ立案サレテ居ルト云フ所ニ、將來ノ産業ノ行キ方ト云フモノニ非常ナ變化ヲ生ズルノデハナカラウカ、例ヘバ今迄ハ低賃金デアルト云フ所ニ基礎ヲ置イテノ産業形態ト云フモノヲ考ヘテ居ツタノデアリマスガ、此ノ労働組合法ト云フモノノ出現以後ニ於ケル産業人ノ計畫ハ、必ズ労働者ヲ成ルベク使ハナイヤウニシテ産業ノ能率ヲ擧ゲルト云フ計畫ヲ立テルト云フコトハ當然ト思ヒマス、サウスレバ、ドウシテモ總テ機械化スル方針ニ出ナケレバナラヌノハ、經營者トシテ當然ト思ヒマス、處ガ此ノ機械化ト云フモノヲ行フ爲ニハ、ドウシテモ大量生産方式ニ依ラナケレバナラヌト云フ結論ニナツテ来ルト思ヒマス、大量生産方式ニ依ツテ然ラバ多量ナ品物ヲ作ツタトシテモ、其ノ販路ガ今日ノヤウニ非常ニ狹小サレテ居ル場合ニ、將來ノ程度迄發展スルカ知レマセヌガ、大量生産ニ依ツテ果シテドレダケノ市場ヲ得ルカ否カト云フコトガ分ラナイトスルナラバ、一面其ノ産業ヲ機械化シタトシテモ、ソレニ依ツテ減ラサレタ所ノ労働者ノ剩餘ヲ其ノ産業ノ生産高ニ應ジテ吸收シ得ルト云フ能力ガナカッタ時ニハ、労働者ハ當然失業狀態ニ入ル者ガ非常ニ殖エテ来ルト云フコトガ考ヘラレルト思フ、ソコデ、斯様ニ現ニ失業

者ガ溢レテ居リ、而モ將來續出シヨウトシテ居ル際ニ、將來ノ産業ガ益々機械化サレテ労働者ヲ必要トシナイ方面ニ向フト云フコトハ、失業対策ノ上カラ言フテモ逆ノ結果ヲ招来スルコト云フコトニナル憂モ多分ニアルト思ヒマス、

○男爵肝付兼英君 仰セノ通り世界的ノ思潮カラ見マシテ、日本モ労働組合ノ制定ガ必要デアルト云フコトハ當然デアツテ、私ハ決シテソレヲ必要デナイト云フコトヲ申上ゲル意味デハナ

イノデアリマスガ、此ノ労働組合法ノ内容其ノモノガ、將來ノ日本ノ産業ノ發展ト觀ミ合セ得ナイデ、一方のニ立案サレテ居ルト云フ所ニ、將來ノ産業ノ行キ方ト云フモノニ非常ナ變化ヲ生ズルノデハナカラウカ、例ヘバ今迄ハ低賃金デアルト云フ所ニ基礎ヲ置イテノ産業形態ト云フモノヲ考ヘテ居ツタノデアリマスガ、此ノ労働組合法ト云フモノノ出現以後ニ於ケル産業人ノ計畫ハ、必ズ労働者ヲ成ルベク使ハナイヤウニシテ産業ノ能率ヲ擧ゲルト云フ計畫ヲ立テルト云フコトハ當然ト思ヒマス、サウスレバ、ドウシテモ總テ機械化スル方針ニ出ナケレバナラヌノハ、經營者トシテ當然ト思ヒマス、處ガ此ノ機械化ト云フモノヲ行フ爲ニハ、ドウシテモ大量生産方式ニ依ラナケレバナラヌト云フ結論ニナツテ来ルト思ヒマス、大量生産方式ニ依ツテ然ラバ多量ナ品物ヲ作ツタトシテモ、其ノ販路ガ今日ノヤウニ非常ニ狹小サレテ居ル場合ニ、將來ノ程度迄發展スルカ知レマセヌガ、大量生産ニ依ツテ果シテドレダケノ市場ヲ得ルカ否カト云フコトガ分ラナイトスルナラバ、一面其ノ産業ヲ機械化シタトシテモ、ソレニ依ツテ減ラサレタ所ノ労働者ノ剩餘ヲ其ノ産業ノ生産高ニ應ジテ吸收シ得ルト云フ能力ガナカッタ時ニハ、労働者ハ當然失業狀態ニ入ル者ガ非常ニ殖エテ来ルト云フコトガ考ヘラレルト思フ、ソコデ、斯様ニ現ニ失業者ガ溢レテ居リ、而モ將來續出シヨウトシテ居ル際ニ、將來ノ産業ガ益々機械化サレテ労働者ヲ必要トシナイ方面ニ向フト云フコトハ、失業対策ノ上カラ言フテモ逆ノ結果ヲ招来スルコト云フコトニナル憂モ多分ニアルト思ヒマス、

斯ウ云フコトヲ考ヘマシタ時ニ、將來ノ産業ガ然ラバ日本ノ現狀ニ於テ如何ナルモノヲ探知シ、ソレガ海外輸出ノ上ニモ、或ハ國內ノ商業ノ上ニモ最も効果的デアリカト云フコトヲ考ヘル時ニ、偶々ソレガ労働者ヲ餘リ必要トシナイト云フ産業ガ、而モ資源ノ關係カラ、或ハ生産ノ狀況カラ寧ロ最適デアルト云フコトヲ國家のニ見タ時ニ、其ノ産業ヲ助長スル結果ハ、結局労働者ヲヨリ以上必要トシナクナル、失業者ヲ擧出セシメルト云フ結果ヲ招カスル、労働者ヲ多數ニ要スルヤウナ産業ヲ採上ゲヨウトスルナラバ、資源ノ關係ニ於テ十分ノ産業ノ發展ヲ望ミ得ナイト云フヤウナ結果モ出テ來ルト思ヒマスノデ、ドウシテモ此ノ労働組合法ト云フヤウナモノヲ考慮スルニ當ツテハ、將來ノ日本ノ國內ノ資源或ハ海外ニ俟ツベキ資源ト云フモノヲ總括のニ勘案シテ、ドノ産業ガ最も此ノ時代ニ適スルカト云フコトヲ判定スル爲ニハ、自然労働組合法制定後ニ於ケル労働者ノ失業狀態、或ハ發展狀態ト云フモノヲ並行のニ考ヘテ行ク必要ガ當然アルト考ヘルノデアリマス、此ノ點ニ付テドウ御考ニナリマスカ

機械技術ノ力ヲ借りナケレバ世界ノ伍列ニ入ルコトガ出來ナイト云フ風ナ、誠ニ困ツタ痛シ痒シノ立場ニ在ルコトハ、只今ノ御意見ノ通りダト思ヒマス、併シナガラ適當ツテノ失業救済ハ、主トシテ原始産業、例ヘバ農業方面、水産業方面、或ハ牧畜ト云ツタヤウナ方面、若シハ道路、港灣ノ建設カ、其ノ他ノ方面ニ人力ヲ出來ルダケ振當テ計置ヲ致シテ居ルノデアリマシテ、其ノ失業救済ヲ一面ニ於テ行ヒツ、他面ニ於ケマシテハ、矢張り機械工業ノ領域ニ關スル限り、進歩シテ科學技術ヲ應用シテ進マナケレバ、今後ノ日本ニ殘サレテ居ル領域ト云フモノハ益々狭クナツテ行ク、斯様ニ考ヘルノデアリマス、ソレニ對シテ明確ナル政策ヲ以テ一舉ニ解決スル途ハナイカト云フ御尋ニナレバ、極ク率直ニ、我々ノ智慧デハマダ其處迄ノ解決案ハドウモ見當リマセヌト申上ゲル外ハナイヤウナ狀態デアリマス、ドウゾ其ノ點ヲ御了承ヲ願ヒマス

○男爵肝付兼英君 只今厚生大臣カラ率直ニ御言葉ヲ戴イテ誠ニ恐縮スルノデアリマスガ、私ハ其ノ點ニ日本ノ非常ナ缺點ガアルト云フコトヲ痛切ニ感ジテ居ル一人デアリマス、今日ノ日本ノ狀態或ハ國策ト云フモノハ、總テテ平面的のニ考ヘテ行クト云フ所ニ非常ナ缺點ガアル、御承知ノ通り大東亞戰爭ハ如何ナル形ヲ行ハレタカト云フト、全クノ立體戰デアリマス、其ノ立體戰ニ加フルニ科學戰ヲ以テシタ、其ノ科學戰ト云フコトガ、一般的のニ言ハレテ居ルノハ、所謂單ナル科學技術ト云フコトニミ基礎ヲ置イテ考ヘテ居ラレルヤウデアリマスガ、私達ニ言ハセルト、決シテサウヂヤナイ、立體戰ヲ行

フ爲ニ必要ナ化學兵器ト云フモノガ科學技術ノ上カラ言ツテ當然是ハ考ヘナケレバナラヌ問題デアリマスガ、是等ノ化學兵器ヲ使ツテ立體戰スル爲ニ計畫サルベキ作戰其ノモノガ科學的デナケレバナラナカッタト云フ點ニ、私ハ非常ナ手拔カリガアツタト云フコトヲ痛切ニ感ジテ居ル一人デアリマス、戰爭其ノモノデスラ此ノヤウナ狀態デアル時ニ、敗戦ノ今日、日本ノ有ラユル國策ヲ遂行スル上ニ於テ常ニ平面的のニ考ヘテ居ルト云フ所ニ、私ハ非常ナ間違ヒガアルト思フ、國策其ノモノヲ考ヘルニ當ツテモ、矢張り立體的のニ之ヲ考ヘル、同時ニ綜合的のニ考ヘルト云フコトガドウシテモ必要デヤナイカ、一ツノ點ト云フモノヲ考ヘテ見マシテモ、平面上ニアル一ツノ點ヲ考ヘル場合ト、空間ニアル點ヲ考ヘル場合トハ、其ノ點ニ全クノ違ツタモノガ考ヘラレルトデアリマス、此ノ點ヲ一ツ今後ノ國策ノ上ニ十分反映サシテ戴イテ、十分科學的ナ、立體的ナ立場カラ物ヲ考ヘルヤウニ仕向ケテ戴クコトガ必要デヤナイカト思ヒマス、是ハ一般ノ人間常識デハ判斷ノ出來ナイ結果ガ常ニ出テ來ルノデアリマス、ト云フノハ其處ニ色々缺點トシテ「フアクター」ガ一ツ、二ツ、三ツ、四ツト非常ニ澤山出テ來タ時ニ、此ノ缺點ヲ如何ニ處理シタラ宜イカト云フコトハ、常識的の判斷デハ判斷ガ付カナイ、是ハ科學的の處理ショウトスル時ニ、最も能率的ナ、效果的ナモノガアルト思ヒマス、之ヲ例ヘテ申シマス、戰爭中ニ偶々鎗ノ生産ニ必要ナ所ノ石炭ヲ或所カラ運搬船ガ機雷ニ觸レテ沈ンダ、斯ウ云フコトニナリマス、其ノ石炭ハ唯其ノ鎗ノ生産ニミ或程度ノ影響ヲ與ヘタト云フ風ニ解釋スルコトハ非常ナ間違ヒデアリマス、石炭其ノモノガクナクツタ爲ニ、鎗ノ生産ガ落ちルト同時ニ、造船ノ上ニモ、或ハ兵器ノ生産ノ上ニモ、有ラユル部分ニソレガ重大ナル影響ヲ持ツテ來テ、單ニ一般ノ石炭船ガ沈ンダコトカスル鐵ノ生産ガガツクリ減ツタト云フコトデ其ノ他ノ國策ヲ見ルコトガ出來ナイト云フ、非常ナ複雜性ヲ持ツテ居ル、此ノ點ヲドウ云フ風ニ御考ニナルカ、ソレハ石炭船ガ一ツ沈ンダト云フコトノ爲ニ生ズル所ノ有ラユル産業ニ及ス陸路、今迄陸路ト申シテ居リマスガ、其ノ陸路ト云フモノヲ此處ニ幾ツモ集メテ、其ノ澤山集メ得タ程、正確ナル結論ガ出ルト思フノデアリマスガ、十デモ十五デモ基礎ヲ出シテ、其ノ結論ヲ綜合的のニ一ツノ、我々ノ方デ申シマス「パラボロイド」、所謂拋物線ノ集合サレタ一點ニ集中スルト云フ、其ノ一點ニ基礎ヲ置イタ時ニ、始メテ其ノ根本原因ヲ發見シ、ソレノ對策ガ考ヘ得ルト云フコトニナルノデアリマシテ、是ハドウシテモ高等數學的、或ハ微分ナリ、積分ナリニ、依ツテ其ノ點ヲ發見スルノデナケレバ今日ノ人間ノ常識ダケデハ發見シ得ナイ、一ツノソコニ數字のナ點ト云フモノガ出テ來ル、之ヲ我々ハ痛切ニ考ヘテ居ルノデアリマス、只今御説ノヤウニ、産業ノ發展ト、労働組合法ノ制定ト、或ハ失業救済ノ救済ト、ソレカラ將來ノ食糧増産ニ對スル對策ト、色々ナ問題ニ對シテ色々ナ關係性ヲ有ツノデアリマセウガ、労働組合法ヲ制定スル爲ニ起ル所ノ影響ト云フモノハ、單ナル産業ニ對シテノミナラズ、ソレガ食糧ノ増産ト云フ部分ニモ影響シ、ソレカラ農村ノ科學

化ト云フヤウナ點ニ付テモ、將來農村ヲ電化スル、或ハ多角經營スルト云フコトニナツテ參リマスルト、此ノ方面ニモ相當ノ労働者ヲ必要トスル部分ガ起キテ來ルト云フヤウナコトヲ考ヘマシテ、色々ナ點ニ及ンデ考究シナケレバナラヌ部分ガ植エテ來ル、是等ヲ綜合シタモノガ如何ナル點ニ歸スルカト云フ、其ノ點ヲ求メルト云フコトハ、單ナル理窟デハナクシテ、一ツノ方程式ニ依ツテ表サナケレバナラヌ問題デアル、此ノ方程式ニ依ツテ得タ結論其ノモノヲ基礎ニシテ、ソレノ論其ノ對スル處置ヲサレタナラバ、所謂今日ドウスベキカト云フ基礎ノ原因ト云フモノガ、始メテ其處ニハツキリシテ來ルト云フコトガ言ヘルノデハナカラウカト思フノデアリマス、是等ハ矢張り微分、積分ト云フヤウナモノノ性質ヲ十分御承知ノ上デ考ヘテ戴キマセヌト、所謂私學的處理ト云フコトガ非常ニムツカシイ問題ニナツテ來ル、此處ニ今迄法律萬能主義デイケナイト叫バレタ原因ガ此ノ點ニアルト思フノデアリマス、今回大東亞戰爭ガ負ケタ一ツノ原因ハ、科學智識ガ足ラナカツタト云フコトハ一般ニ言ハレテ居ルノデアリマスガ、ソレハ單ニ化學兵器ノ生産其ノモノダケノ問題デナクシテ、物ノ見方ガ科學的デナカッタト云フ所ニ非常ナ原因ガアル、此ノ物ノ見方ヲ科學的のニ見ルト云フコトハ、今日ノ總テノ問題ハ立體的のニ考ヘナケレバナラヌト云フ時ニ、一番必要ナコトダト思フノデアリマス、斯ウ云フ點カラ考ヘマシテ、此ノ労働組合法ヲ制定ト云フモノハ、今日必要デハアツタニシテモ、一方のニ唯一ツノモノガボコント出テ來テモ、日本ノ今日はガドノ程度ニ

合理的デアルカト云フコトヲ決メルノニハ、餘リニ材料ガ足りナサ過ギルト云フコトヲ私ハ申上ゲテ居ルノデアリマス、希ハクバ今後ノ有ラユル事業ヲ遂行スルニ於キマシテモ、平面的ナ考ヘ方デナク、立體的ナ考ヘ方デアリ、而モソレヲ科學的處理、所謂「サイエンス・ファイック、マニージメント」ト申シマス、サウ云フヤウナ見地カラ總テノ國策ヲ取捨ツテ行クト云フコトハ、當然必要デアルト思フノデアリマス、斯ウ云フ點ニ付テ將來共、色々ナ國策ヲ遂行スルニ於テ、サウ云フ見地カラ考ヘテ戴キ得ルカドウカト云フ點ニ付テ、一應伺ツテ置キタイト思ヒマス

○國務大臣(曾田均君) 肝付男爵カラ色々詳細ナル御意見ヲ拜聴致シマシテ、頗ル傾聴スベキ御意見デアルト考ヘテ居ルノデアリマス、私ハ其ノ方面ノ研究ガ不十分デアル爲ニ、十分ニ對應スル御答辯ヲ申上ゲルコトハ困難デアルト思ヒマス、私ノ了解致シマシタ範圍ニ於テ、尙關係ニモ能ク説明ヲ致シマシテ、精々御意見ノ趣意ニ準ジテ、今後ノ施策ヲ致シタイト思ヒマス

●男爵肝付兼英君 此ノ勞働組合法ヲ取捨ツテ行ク上ニ一番問題ニナルノハ、勞働委員會ノ問題デアルト思ヒマス、今日迄拜見致シタ所ニ依リマス、勞働委員會ト云フモノノ性格ハ、勞働者側カラト、使用者側カラト、同數ノ委員ガ出テ、其ノ上ニ中正のナ、兩方カラノ了解ヲ得タ同數ノ委員ガ選出サレルト云フヤウナコトニナツテ居ルノデアリマス、兩方ノ了解ヲ得ルト云フコトガ、是レ亦實際ノ問題トシテ科學的ニ考ヘテ、不可能ナ問題ダト思フノデアリマス、例ヘバ勞働組合トシテ

ハ非常ニ多數ナ人間ノ組合デアリ、使用者側カラ申セバホソノ僅カナ數デアリマス、其ノ僅カナ數ト多數ノ者トノ意見ノ一致シタモノヲ求メルト云フコトハ、實際問題トシテ不可能ナ問題ニナルト思フノデアリマス、斯ウ云フ點ニ付キマシテ、モウ少シ合理的ナ解決ヲ與ヘ得ルヤウナ方法ト云フモノヲ御考ニナツテ戴キナイト、將來勞働委員會ト云フモノヲ構成スル上ニ常ニ問題ガ起キテ纏ラナイト云フコトガ發生スルト私ハ考ヘテ居リマス、此ノ點ニ付テドウ云フ風ナ御考デアリマス

○國務大臣(曾田均君) 御尤モナ點ガ多クアルト思ヒマス、實際問題ト致シマシテハ、例ヘバ議會ヲ構成スルニ付キマシテモ、或ハ選舉ニ依リ或ハ貴族院ノ構成等ノ場合ニ於テモ見ラレ如ク、數學的ニ計算シテ非常ニ正確ナ數字ヲ出スノ困難ナコトガ、世間ニハ相當多イノデアリマシテ、大體常識的ニ見テ、是ナラバ略々中正デアラウト云ツタヤウナ方法ニ依ツテ機關ヲ作ルコトガ多イノデアリマス、或ハ專門ノ立場カラ御覽ニナレバ、勞働委員會ノ構成ナルモノガ、必ズシモ純理的ニ正確ニ出テ來ナイト云フ御批判モアルト思ヒマス、略々此ノ程度ヲ滿足スル以外ニ、更ニ突キ進ンデ正確ヲ期スル途方見當ラナカッタカラ、斯ウ云フコトニ致シタ譯デアリマス、其ノ邊ノコトヲ一ツ世間並ト云フコトデ御了承ヲ願ヒタイト思ヒマス

○男爵肝付兼英君 ドウモ日本人ノ缺點ハ、此ノ位ノ所デトカ、所謂目ノ子算事ヲ解決シヨウトスル所ニ、非常ニ日本民族ノ缺點ガアル、其ノ位デ宜カラウマア、ト云フヤウナコトデ行クカラ、何時デモ後デ問題ニナルト思

フノデアリマス、之ヲドウシテモ是正シナケレバ、日本ノ發展ノ上ニ脆弱性ガアル、特ニ「アメリカ」ノヤウニ科學的ニ何デモヤツテ行ク國ヲ對象トシテ今後ヤツテ行ク上ニハ、基礎其ノモノニ確實性ヲ持タセナケレバナケレバナライ、基礎ガグラツイタラ、何デモ後ガグラツイテ來ル、今日ノ豫算デモ何デモサウデアリマスガ、統計其ノモノガ科學的ニ出來テ居ナイ、統計其ノモノノガイ、加減デアル、其ノイ、加減ナ統計ヲ附ツテ總テノモノヲ解決シヨウトスルカラ、根本ノ主義ガグラツイテ居ルカラ、何ヨヤツテモグラ、グラツイデシマフ、セメテ、一般的ニハ兎モ角モ、政府御自體位ハ、其ノ基礎ニナルベキモノヲ、此ノ位デ宜カラウト云フコトデナク、モットハツキリト學理的ニモ、是デ右ニモ左ニモ上ニモ下ニモ動かナイノダト云フ、一ツノ點ヲ拵ヘテ、其ノ上デ總テノ問題ヲ解決スルヤウニシテ戴キタイ、是ガ私ノ非常ナ御願デスガ、今直チニ其ノコトヲ申上ゲテモ御無理ダト思ヒマス、是ハ今後ノ御施策ノ上ノ希望トシテ申上ゲテ置キタイト思ヒマス

○瀧川儀作君 肝付男爵ノ御意見ハ非常ニ參考ニナリマスガ、何ダカ討論ニ入リツ、アルヤウニ思ヒマスガ、今日ハ初メテノ委員會デアリマシテ、質問ノ準備モアリマスカラ、今日ハ此ノ程度デ、時間ヲ與ヘテ戴キタイト思ヒマス、會期ノ切迫ノ時ニ時間ヲ空費スルコトハ何デアリマスガ、重大問題デスカラ、サウ云フヤウニ願シタラドウカト思ヒマス

○子爵秋元春朝君 參考書類ヲ二ツ三ツ御願ヒ致シマス、先程質問シタコトニ關聯シテ居リマスガ、諸官廳デ之ニ

類似シタ組合等ガアルデセウガ、現業委員會、遞友會ト申シマス、海員組合トカ、ソレカラ大體省ノ方ニモ煙草ノ關係、内務省ノ方トシテ都電トカ何トカ云フモノガアリマス、サウ云フヤウナ會トカ、名前ト云フモノヲ列舉シテ戴イテ、其ノ下ニ凡ソドノ列員數ガ居ルカ、ソレカラ特徵ヲ持ツタモノガ若シモアレバ、取捨ツテ居ル福利、共濟ニシテモ、待遇ニシテモ、特ニ日立ツタ施設ヲ持ツテ居ルト云フモノガ若シアリマシタラ、鐵道ナシカ相當アルト思ヒマス、遞信院ノ方ニモ、海員ノ方ニモ相當アルト思ヒマスカラ、極ク簡單ナモノデ宜シウゴザイマスガ、員數ト種類ト其ノ特徵ト、是ダケ御願シテ置キマス

○委員長(河原田壽吉君) 本日ハ此ノ程度ニ止メマシテ、明日ハ午前十一時カラ開キマス
午後二時五十三分散會
出席者左ノ如シ
委員長 河原田壽吉君
副委員長 男爵久保田敬一君
委員 公爵岩倉 具榮君
侯爵中山 純親君
伯爵橋本 實斐君
子爵立花 種忠君
子爵秋元 春朝君
子爵梅岡 篤彦君
子爵高木 正得君
子爵齋藤 齊君
吉田 茂君
大野綠一郎君
大橋 八郎君
男爵八代五郎君
男爵肝付 兼英君
男爵西 西乙君

國務大臣 廣田 均君
厚生大臣 芦田 均君
政府委員 厚生省勞政局長 高橋 庸彌君
厚生書記官 中西 實君

貴族院事務局 印刷者 印刷局